

野辺の花

「今月の言葉」春は名のみの桜月。或る日以前、阿列布を利用された方が亡くなつたという噂を聞いた。亡くなったのは二月(享年五十三歳)。彼の死は身内のご意向で誰にも知らせなかつたという。既に亡くなつては彼の父から、障害者の「親亡き後の施設建設」の夢を託されていた。一人二人と保護者や日本人が他界する現実にも焦る思いと、国では仕訳作業なる税金の無駄づかいを洗い出している。このような現実に出会う度、遺る瀬無さを感じる。後日お宅に伺い、無念の思いで合掌。
 (文/表紙 遠藤節子)



【絶対の基本理念】 最終目標である「親亡き後の施設」建設に向け、新たな歩みを踏み出した私たちの絶対の基本理念として明文化し、支援の拠りどころと致します。

- 無私 (私が、私がないこと)
- 愛 (大切に作る心、思いやる心)
- 内省 (深く自分をかえりみること)

3

月号

2010年3月15日発行
 VOL.12 NO.3
 (通巻113)

平成22年度事業計画、予算を承認

TSK おりいぶ人



社会福祉法人 ^{あいとく} 愛篤福祉会・^{おりいぶ} 工房阿列布
 〒973-8407 いわき市内郷宮町峰根 65-187
 TEL.0246-36-3944 FAX.0246-36-3922
 e-mail : olive-f@amber.plala.or.jp

千
 草
 群
 像

明治・平成 覚悟のしかた

遠藤節子 (工房阿列布管理者)

改革の烽火を上げたといわれる幕末の英雄？坂本龍馬が今、再燃している。

多分、龍馬の言葉で「日本を今一度洗濯いたし申し候・・・」に囚んでいるからだろう。龍馬を景仰する政治家、経営者が多い。この現象は司馬遼太郎の著書「竜馬がゆく」のおかげと言われており、実しやかに語り継がれてしまった。司馬はフィクションであることを示すために、敢えて「龍馬」を「竜馬」という字で違いを出したというが、強ちフィクションとも言えない事実もあり、もう一つ、司馬流「竜馬像」が完成されていった。

この智勇兼備な無名の青年(弱冠33才)の存在が、新政府誕生を前にて刺客に倒れたことに、司馬は、一閃の光を「竜馬がゆく」で表現したかったのかもしれない。そして司馬は彼をこう表現したという。

「天に意思があるとしかこの若者の場合思えない。天がこの国の歴史の混乱を收拾するためにこの若者を地上に下し、その使命が終わったとき、惜しみげもなく天へ召しかえ

した」とある。あまりにも呆気なく散った龍馬に司馬は神の計らいを感じたのだろう。

昨今、我こそは坂本龍馬の親戚だ、「坂本龍馬になる！」と名乗る政治家、起業家等が増えている。因みに「わだばゴッホになる！」と言って(板画家の棟方志功)世間に風邪でも引いたのかと馬鹿にされながら無心に板木を彫った版画家がいた。世界の棟方志功である。「版画」を「板画」と書くんだと拘り、無心に板を彫った。「板の命を掘り起こす」それが棟方流板画である。一説によるとゴッホのひまわりを見て、油絵やりたと思った。しかしゴッホは油絵具と思つたらしく、画家「ゴッホ」ではなく、「わだば油絵をやる！」だったらしい。つまり、「やらずにはいられない」という動機、自らを突き動かす「愛しているものがあるか」である。龍馬は「日本第一の人物」として勝海舟の名を挙げ、海舟の「駒」になった。したがって明治新政府功績者に坂本龍馬の名さえない。「国のため天下のためちからおつくしおり申候」これが坂本龍馬の覚悟である。

TSK
 おりいぶ人
 1部 ¥100
 (会員は会費に含む)

毎月15日発行
 編集者 〒973-8407 福島県いわき市内郷宮町峰根65-187
 社会福祉法人愛篤福祉会 工房阿列布
 発行所 〒981-0907
 宮城県仙台市青葉区高松1-4-10
 東北障害者団体定期刊行物協会

おりいぶ1号館 〒970-1151 いわき市好間町下好間字鬼越24-10 TEL.0246-36-3976・FAX.0246-36-3986
 茶房おりいぶ 〒970-8026 いわき市平字中町7-2 TEL・FAX.0246-25-3977

おりいぶ後援会は、工房 阿列布を市民の立場から物心両面で支援するボランティア団体です。

平成二十二年度 事業計画、予算決定

三月二十四日(水)工房阿列布会議室にて、平成二十二年度事業計画、予算を審議する理事会・評議員会が開催されました。

「障がい者の老後の施設」建設に向け、来年度は役員等による施設見学、情報の収集を基本構想の策定をしていくことに決定致しました。また、第三回となる「チャリティーコンサート」の実施も承認されました。

施設においては、借用している平中町(茶房おりいぶ)を雑貨店としてリニューアルオープンすることも承認されました。六月上旬再開予定です。

建設資金へ寄附

三月二十五日(木)に坂井督弘さん、達雄さんより、施設建設に役立ててほしいと二〇〇万円の寄附を頂きました。

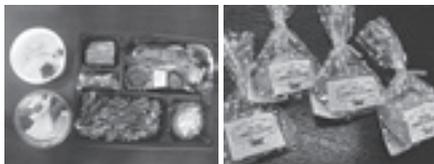
小規模作業所の時からボランティアでご協力して頂いていた坂井さんは、「法人の最終目的の「障がい者の老後の施設」建設計画が本格的に動き出す様なので今回寄附をしました。この寄附をきっかけに皆さんが思いを一つ

にして力を集中できれば早期に完成できると思います」と話します。寄附の贈呈式は四月一日の入所式において行います。



大好評! お弁当・クッキー、ケーキ

一号館のお弁当、クッキーが大変好評です。卒業生へのプレゼントや謝恩会でのお弁当、また、幼稚園では卒園や進級する園児に対するプレゼントにと五〇ヶのケーキと一〇〇個を越えるクッキーのご注文を頂きました。ご注文を頂いた先生方ありがとうございました。また、卒園、卒業される皆さま、新しい学校、社会で頑張ってください。



総合防災訓練を実施しました。



三月十七日(水)内郷消防署のご協力を頂き、総合防災訓練を実施致しました。署員の方から普段行っている避難訓練の成果が出てとても良かったです。

たですと講評を頂き、続いて水消火器を使って消火器の使い方の指導を受けました。

内郷地区文化祭に出店しました。

3月4日、5日の2日間、内郷公民館で行われた文化祭に出店しました。食パンやケーキを販売し、大変好評でお昼前に完売して、追加製造にてんでこ舞いでした



平成二十一年度下半期 利用者発表会開催



三月二十六日(金)スパリゾートハワイアンズラピータにおいて今年度下半期の利用者発表会を開催致しました。

病気療養のため長期欠勤をしていた二名の利用者にエールを送ったり、先日亡くなられた村越さんへのメッセージを読み上げたりしました。今回は、大型のスクリーンを使い、「社会体験活動」の紹介や、童話の語りなど今までに無い発表会になりました。

訃報

二月十四日 元利用者の村越正幸さん(享年五十三歳)が亡くなられました。謹んでご冥福を申し上げます。



寄附者名簿(物品寄附含む) 平成22年3月

坂井督弘様、坂井達雄様、おりいぶ後援会様、渡辺麻美様、小松谷純子様、菅本晴代様、野口孝寛様、白川順様、金田静子様